

高等学校 令和6年度（1学年用） 教科 家庭科 科目 家庭総合

教科：家庭科 科目：家庭総合 単位数：2 単位  
 対象学年組：第1学年 1組～5組  
 使用教科書：（「家総703家庭総合」実教出版）  
 教科 家庭科 の目標：

- 【知識及び技能】人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的にとらえ、家族・家庭、衣食住、消費や環境など、生活を主体的に営むために必要な理解を図るとともに、それらにかかわる技能を身につけるようにする。
- 【思考力、判断力、表現力等】家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定、解決策を構想・実践、考察するなど、生涯を見通して生活の課題を解決する力を養う。
- 【学びに向かう力、人間性等】さまざまな人々と協働し、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を主体的に創造しようとする実践的な態度を養う。

科目 家庭総合 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的にとらえ、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会とのかわりについて理解を深め、生活を主体的に営むために必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて理解しているとともに、それらにかかわる技能を身につけている。	生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身につけている。	さまざまな人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践しようとしている。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	感	配当 時数
人と衣服のかかわり 【知識及び技能】 人はなぜ衣服を着るのか理解する。衣服のTPOとは何か理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 衣服が持つ機能や安全性について考える。 【学びに向かう力、人間性等】 だれもが快適な衣生活を送るためにはどうするか主体的に学ぶ。	・季節ごとの着こなしについて考える。 ・衣服のTPO、習わしについて考える。 ・衣服の起源や歴史、風土に適した衣服について知り、人はなぜ衣服を着るのか考える。 ・衣服が持つ機能や安全性などについて学ぶ。	【知識・技能】 衣服を着るようになった理由、TPOによる着方や着装の工夫を理解している。 【思考・判断・表現】 衣生活の文化や、自分の衣生活をとりまく状況について関心を持っている。 【主体的に学習に取り組む態度】 衣生活の改善・向上に積極的に取り組もうとしている。	○	○	○	4
持続可能な衣生活をつくる 【知識及び技能】 現在の私たちの衣生活について、理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 私たちの衣生活が環境や世界とどのようにつながっているのかを考える。 【学びに向かう力、人間性等】 自分の衣生活をふり返る。	・環境に配慮した衣生活について世界の動向を学び、自分たちができていることを考える。	【知識・技能】 持続可能な衣生活について理解している。 【思考・判断・表現】 不要となった衣類について、リサイクルに回す、つくりかえるなど、実生活において実践することができている。 【主体的に学習に取り組む態度】 現在の衣生活をとりまく状況について、自分の衣生活を振り返りながら、課題を導き出すことができている。	○	○	○	2
自分の未来予想図を描こう 【知識及び技能】 ライフステージごとの特徴・課題を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 自分の特徴や長所に気づき、人生を展望できるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】 今の自分を見つめ、将来を展望できるようにする。	・ライフステージにおける発達段階について学び、現在の自分の課題を考える。 ・今の自分について自分分析を行い、未来予想図を描く。	【知識・技能】 自分自身について考えるワークシートや将来についてのレポートなどを通して、自分や、人の一生についての考えをまとめることができている。 【思考・判断・表現】 人生の各ライフステージの特徴と課題について知り、少子高齢社会、男女共同参画社会などの社会状況を考えながら、自分の生活や将来について考えを深め、発表などを通じて考えを表現することができている。 【主体的に学習に取り組む態度】 現在の自分のこと、将来の生活設計を考えることについて、意欲を持って取り組もうとしている。	○	○	○	2
自立と共生 【知識及び技能】 男女共同参画社会の実現をめざす歩みと社会的背景について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 どのような青年期を生きるかを考えることができるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】 将来の自分自身と社会のあり方を展望する。	・「大人」と自分を比較し、不足している点を考える。 ・青年期の特徴について学ぶ。 ・これからの自分自身と社会のあり方を展望する。	【知識・技能】 青年期の課題である自立や男女の平等と相互の協力などについて理解できている。 【思考・判断・表現】 これからの自分自身と社会のあり方を展望できている。 【主体的に学習に取り組む態度】 男女共同参画社会など、現在の社会的状況について、興味を持って知ろうとする態度がある。	○	○	○	2
衣服をつくろう 【知識及び技能】 衣服製作を通して、衣服の構成や基礎的な縫製技術を身につける。 【思考力、判断力、表現力等】 刺し子柄の糸色を選ぶ際、テーマを決めて表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 刺し子柄のテーマに沿って、色使いを工夫し、主体的に取り組む。	・日常着を製作する。 ・刺し子糸の色使いを工夫する。 ・毎時間の縫製目標を達成させる。	【知識・技能】 衣服製作実習を通して、材料の選択、日常の管理の方法を習得している。 【思考・判断・表現】 刺し子柄の糸色を選ぶ際、テーマを決めて表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 刺し子柄のテーマに沿って、色使いを工夫し、主体的に取り組んでいる。	○	○	○	8
定期考査						
衣服をつくろう 【知識及び技能】 衣服製作を通して、衣服の構成や基礎的な縫製技術を身につける。 【思考力、判断力、表現力等】 刺し子柄の糸色を選ぶ際、テーマを決めて表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 刺し子柄のテーマに沿って、色使いを工夫し、主体的に取り組む。	・日常着を製作する。 ・刺し子糸の色使いを工夫する。 ・毎時間の縫製目標を達成させる。	【知識・技能】 衣服製作実習を通して、材料の選択、日常の管理の方法を習得している。 【思考・判断・表現】 刺し子柄の糸色を選ぶ際、テーマを決めて表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 刺し子柄のテーマに沿って、色使いを工夫し、主体的に取り組んでいる。	○	○	○	10
ライフキャリア 【知識及び技能】 労働の種類とその意義について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 労働の種類、またその意義について多面的に検討できるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】 労働を支える社会や地域のしくみを知ること、私たちもその一員であるという自覚を持つことができるようにする。	・働く意義とどのような仕事（職場）で働きたいと思うかを考える。 ・職業労働と家事労働の違いをまとめる。 ・職業生活や家庭生活における時間の使いかたについて考える。	【知識・技能】 生活にかかわる労働の意義、また、現在の労働環境などについて理解できている。 【思考・判断・表現】 現在の生活時間の状況をふまえて、生活時間と労働との関係について考える。 【主体的に学習に取り組む態度】 労働の意義や役割、労働時間と生活時間とのかわりについて関心を持ち、現在の家族、家庭が抱える課題を見いだそうとしている。	○	○	○	2
共に生きる家族 【知識及び技能】 結婚、家族・家庭の意義や機能について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 時代とともに変化する家族・家庭について考える。 【学びに向かう力、人間性等】 現在の家族の抱える課題を考える。	・「家族」の条件とは何か考える。 ・家族のライフイベントについて考える。 ・家族が抱える問題を踏まえて、家族を支えるしくみについて具体的に考える。	【知識・技能】 結婚、家族・家庭の多様化や、時代とともに変化する役割について理解できている。 【思考・判断・表現】 現在の家族・家庭のあり方や役割について考えを深め、表現することができている。 【主体的に学習に取り組む態度】 結婚、家族・家庭の形、家族・家庭の役割について、自分とどうかわっているのか、興味・関心を持つようとしている。	○	○	○	2



高等学校 令和6年度（2学年用） 教科 家庭科 科目 家庭総合

教科： 家庭科 科目： 家庭総合 単位数： 2 単位

対象学年組： 第 2 学年 1 組～ 5 組

使用教科書：（「家総703家庭総合」実教出版）

教科 家庭科 の目標：

- 【知識及び技能】 人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的にとらえ、家族・家庭、衣食住、消費や環境など、生活を主体的に営むために必要な理解を図るとともに、それらにかかわる技能を身につけるようにする。
- 【思考力、判断力、表現力等】 家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定、解決策を構想・実践、考察するなど、生涯を見通して生活の課題を解決する力を養う。
- 【学びに向かう力、人間性等】 さまざまな人々と協働し、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を主体的に創造しようとする実践的な態度を養う。

科目 家庭総合 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的にとらえ、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会とのかかわりについて理解を深め、生活を主体的に営むために必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて理解しているとともに、それらにかかわる技能を身につけている。	生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身につけている。	さまざまな人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践しようとしている。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学期	家庭科を学ぶにあたって	・「家庭総合」を学ぶにあたって、学習の意義や内容、情報収集、ノートやファイルの書き方など学習の方法、評価の方法を理解する。 ・家庭科がSDGsと深く関わっていることを理解する。	【知識・技能】 ・家庭科とSDGsの関わりについて理解できている 【思考・判断・表現】 ・視聴覚教材の感想が書けている 【主体的に学習に取り組む態度】 これから1年間家庭科を頑張ろうという意欲がみられる。	○	○	○	2
	第6章 食生活をつくる 1節 人と食物のかかわり 気候風土や宗教による食生活の違いを学ぶ 世界の食について調べ、その多様性を学ぶ。	・食事の意義を理解する ・日本の食文化の形成および和食の特徴を理解する。	【知識・技能】 各地の気候風土や宗教による食生活の違いを理解するとともに、日本の食文化について理解できている。 【思考・判断・表現】 地域の食文化やそれが発達してきた背景などについて教科書などから情報を収集してまとめることができる	○	○		2
	2節 私たちの食生活 各自の食生活の問題点に気づく 調理実習を通して、基本的調理技術を身につける	・自身の食生活の現状把握と今後の課題を理解する。 ・衛生と安全に配慮して実習を行うことができる。	【知識・技能】 ・食文化や食生活をとりまく環境から、食事の意義や役割を理解できている。 ・必要な調理技術を身につけている 【思考・判断・表現】 調理実習において、作業の流れを判断しながら取り組むことができる 【主体的に学習に取り組む態度】 ・食文化や自分自身の食生活について関心があり、意欲的に改善・向上につとめようとする。 ・調理実習において、積極的に参加し、取り組もうとしている。	○	○	○	8
	第3章 子どもとかわる 1節 子どもとは ・青年期の健康を学ぶことで、次世代を担う子どもを育て、はぐくんでいくことの責任感を養う。 ・子どもの感じ方について出し合う。	・10代の健康が、将来生まれてくる子どもにつながることを理解する。 ・子どもの世界を会おうことで、自己理解を深める。	【思考・判断・表現】 ・子どもの世界について、自分の子どものころを思い起こしながら、表現できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・生命の尊さについて、自分の現在、将来を結びつけながら、学習しようとする意欲がある。		○	○	4
	2節 子どもの発達 子どもの発達について考える。 子どものからだの成長について学ぶ。	・子どもの誕生、子どもの心身の発達と特徴について理解する。 ・子どもは、親や保育者などの身近な大人とのかかわりあいの中で発達していくことを理解する。	【知識・技能】 子どもの心身の発達や生活について知識を身につけている。 【思考・判断・表現】 得た知識の中から課題を見つけ、解決への考えをまとめることができる。	○	○		8
	確認テスト						
	第6章 食生活をつくる 3節 栄養と食品のかかわり 栄養素について学び、バランスの良い食事について考える。	・栄養素の種類と働きやそれぞれの栄養素が多く含まれている食品についての基礎知識を身につける。	【知識・技能】 栄養・食品に関する知識や調理の技術を身につけ、それを実生活に生かすことができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 食品、栄養に関する知識や調理において、知識を深めようとしている	○		○	8

2 学 期	4節 食品の選び方と安全 旬の食材を考え、旬の時期がなぜよいか学ぶ  調理実習を通して、基本的調理技術を身につける。	・季節ごとに旬の食材があることを理解する。  ・衛生と安全に配慮して調理実習を行うことができる。	【知識・技能】 ・旬の食材になにがあるか、なぜ旬の食材がいいのか理解している。 ・必要な調理技術を身につけている 【思考・判断・表現】 ・旬の食材を使用した献立を考えることができる。 ・調理実習において、作業の流れを判断しながら取り組むことができる 【主体的に学習に取り組む態度】 ・調理実習において、積極的に参加し、取り組もうとしている。	○	○	○	6
	第3章 子どもとかわる 3節 子どもの生活 子どもの基本的な生活習慣や社会的な生活習慣の身につけ方を学ぶ  絵本作りや読み聞かせを通して、子どもの遊びの意義や課題について考える。	・子どもの食生活。衣生活について理解を深める。	【知識・技能】 基本的な生活習慣の身につけ方を理解できる。 【思考・判断・表現】 子どもの関心・興味のあるようなおもちゃを創意工夫できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 子どものためのおもちゃづくりなどの実践活動に積極的に参加している。	○	○	○	12
	確認テスト						
3 学 期	第8章 住生活をつくる 1節 人間と住まい 気候風土と住まいの関係、そこでの人間の営みとの関係を考える 2節 住まいの分化 日本の伝統的な住居や工夫を里香氏し、現代に生かすことのできる和の文化をまとめる。	・住まいはどのような機能を持ち、人の生活がどうかかわっているか理解する。 ・日本の住まいの変遷、生活様式を理解する。	【知識・技能】 住居の機能や気候・風土のかかわりに関心を持ち、各地の気候・風土に適した住まいを理解している 【思考・判断・表現】 日本各地の伝統的な住居について、工夫を見つけることができる。	○	○		4
	3節 住まいを計画する 快適な住まい方を考え、平面計画を立てる。	・住まいの生活空間の機能を理解し、空間の特徴や家族のイメージをすることができるようにする。	【知識・技能】 家族構成やライフステージなどから、平面図を読み取ることができる。 【思考・判断・表現】 住空間の設計とライフステージの関係、住環境などについて考えを深めることができる 【主体的に学習に取り組む態度】 よりよい住生活の創造に向けて意欲的に取り組もうとする。	○	○	○	6
	食生活をつくる 4節 食品の選び方と安全 食品衛生について学ぶ 5節 食事計画と調理 調理を通して、基礎的な技術を身につけ、食事マナーを実践する。	・食中毒の予防法を理解する ・衛生と安全に配慮して、調理することができる。	【知識・技能】 ・食中毒の予防法や、食品添加物の特徴を理解している。 ・必要な調理技術を身につけている。 【思考・判断・表現】 調理実習において、作業の流れを判断しながら取り組むことができる 【主体的に学習に取り組む態度】 調理実習において、積極的に参加し、取り組もうとしている。	○	○	○	10
	確認テスト						70

高等学校 令和6年度（3学年用） 教科

家庭科 科目 フードデザイン

教科： 家庭科

科目： フードデザイン

単位数： 2 単位

対象学年組： 第 3 学年 1 組～ 5 組

使用教科書：（「家庭702フードデザイン」教育図書）

教科 家庭科

の目標：

- 【知識及び技能】 人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的にとらえ、家族・家庭、衣食住、消費や環境など、生活を主体的に営むために必要な理解を図るとともに、それらにかかわる技能を身につけるようにする。
- 【思考力、判断力、表現力等】 家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定、解決策を構想・実践、考察するなど、生涯を見通して生活の課題を解決する力を養う。
- 【学びに向かう力、人間性等】 さまざまな人々と協働し、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を主体的に創造しようとする実践的な態度を養う。

科目 フードデザイン

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
・調理、テーブルコーディネートなどに関する技術を習得することができる ・食事の意義と役割について理解するとともに、豊かな食事を構成する要素として栄養、食品、料理様式と献立、調理、テーブルコーディネートなどに関する知識を習得することができる。	自分自身の食生活や、食環境が大きく変化している現状に課題を見つけ、思考を深める。また、考えをまとめて判断ができる。	食の役割に関心を持ち、作ることから食べるところまでを総合的にとらえて計画する意欲と実践的な態度を身につけようとする。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	第1章 1 健康と食生活 なぜ食べるのだろう 2 食をとりまく現状	・食事の基本的な意義を理解させる。 ・家族、友人等集団での食事を共にすることの意義など、食事に関わる利点を再確認させる。 ・現代の食に関する問題点を把握させる。 ・健康維持のために食事がどのように大切かを理解させる。	【知識・技能】・現代の食生活の現状について、情報を収集・整理し、考えをまとめることができる 【思考・判断・表現】 ・心身ともに健康で豊かな食生活を営むための食事のあり方について思考を深め、自分の食生活の現状を判断することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・自分自身の食生活や日本の食生活の現状に関心を持ち、改善しようとする意欲が感じられる。	○	○	○	6
	第4章調理してみよう 1 なぜ調理をするのか ①安全性の向上 ②栄養性の向上 ③おいしさの向上	・何のために調理するのかを理解させる。 ・おいしさに関わる条件を知り、調理にいかせるようにする。	【主体的に学習に取り組む態度】 ・調理の目的について、安全性、栄養、嗜好、心身の健康などの面から関心を持ち、学ぼうとする意欲が感じられる。			○	10
	2 調理操作と調理器具	・だし、味覚効果、料理の触感や温度、素材の持ち味等おいしさに関わる要素を理解し、調理にいかせる。 ・計量の方法、食品の切り方、調理方法の基礎、加熱調理器具ごとの特徴などについて、具体的な知識と技術を身につけさせる。 ・調味に関する基本的な知識を習得させる。	【知識・技能】 ・調味、加熱やその他の調理操作が、料理のできあがり大きく影響することを実験を通して観察し、考察することができる。 ・日常食、行事食、供応食などの調理に必要な調理技術の基礎を身につけることができる。 【思考・判断・表現】 ・食物のおいしさは、味・におい・色・テクスチャー・温度など関わっており、調味、加熱やその他の調理操作が料理のできあがりに与える影響について思考を深めることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・主な加熱操作と非加熱操作について関心をも定、学ぼうとする意欲が感じられる。	○	○	○	12
2 学 期	献立と調理 和風料理	・栄養バランス、年齢、性、目的を考慮した食事の献立について、要点が理解でき、日常食、行事食など用途に適した献立が作成できる。 ・これまで身につけた知識を調理にいかし、手際よくつくることのできるようにする。	【知識・技能】 ・調味、加熱やその他の調理操作が、料理のできあがり大きく影響することを実験を通して観察し、考察することができる。 ・日常食、行事食、供応食などの調理に必要な調理技術の基礎を身につけることができる。 ・主な加熱操作と非加熱操作について、食品の調理性や栄養的特徴などとかかわらせて理解できる。 【思考・判断・表現】 ・食物のおいしさは、味・におい・色・テクスチャー・温度など関わっており、調味、加熱やその他の調理操作が料理のできあがりに与える影響について思考を深めることができる。	○	○	○	8
	献立と調理 洋風料理 中華料理 多国籍料理	・基礎的な題材から始めて、品数を増やしたり、工程が多いものに移行していくなど、段階的に調理技術の向上をはからせる。 ・米および小麦粉を使った諸国の料理を知り、それぞれの国の食文化を理解するとともに、料理がつくれる。 ・正月料理やクリスマス料理で、料理をつくる喜びやつくった料理を皆で食べる喜びを知る。 ・日本の伝統行事の継承や和風料理を伝承する能力を培う。	【主体的に学習に取り組む態度】 ・積極的に実習に参加し、学ぼうとする意欲が感じられる。	○	○	○	14
	行事食 クリスマスの献立 正月料理		【主体的に学習に取り組む態度】 積極的に実習に参加し、学ぼうとする意欲が感じられる。	○	○	○	12

3 学 期	第6章食育と食育推進活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食育基本法の内容について理解させる。</li> <li>・食育が生活とどのようにかかわっているか考えさせる。</li> </ul>	<p><b>【知識・技能】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食育活動について情報を収集・整理し、考えをまとめることができる。</li> </ul> <p><b>【思考・判断・表現】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食についての課題を見だし、その解決を目指した食育活動について思考を深めることができる。</li> </ul> <p><b>【主体的に学習に取り組む態度】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食育の意義と活動に関心を持つようとしている。</li> </ul>	○	○	○	6

高等学校 令和6年度（3学年用） 教科

家庭科 科目 保育基礎

教科： 家庭科

科目： 保育基礎

単位数： 2 単位

対象学年組： 第 3 学年 1 組～ 5 組

使用教科書：（「家庭706保育基礎」教育図書）

教科 家庭科

の目標：

- 【知識及び技能】 人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的にとらえ、家族・家庭、衣食住、消費や環境など、生活を主体的に営むために必要な理解を図るとともに、それらにかかわる技能を身につけるようにする。
- 【思考力、判断力、表現力等】 家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定、解決策を構想・実践、考察するなど、生涯を見通して生活の課題を解決する力を養う。
- 【学びに向かう力、人間性等】 さまざまな人々と協働し、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を主体的に創造しようとする実践的な態度を養う。

科目 保育基礎

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの発達や特徴、保育やと文化についての知識を身につけている。</li> <li>・関連する技術を身につける</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもを取り巻く課題を発見し、保育を担う職業人としての視点から合理的かつ創造的に解決するために、思考を深め、適切な判断や工夫する力を身につけている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの発達や保育にかかわる職業について関心をもつ</li> <li>・地域の保育や子育て支援など、子どもの健やかな発達に寄与しようとする意欲的な態度を身につけている。</li> </ul>

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	子どもにかかわる職業を知ろう	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもにかかわる職業にはどんなものがあるか、その意義を知る</li> <li>・自分が将来どのような形で子どもにかかわりたいか考える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【知識・技能】</li> <li>・さまざまな職業が子供の健やかな発達に寄与していることを理解する</li> <li>【思考・判断・表現】</li> <li>・自分の将来の子どもへのかかわりについて具体的に考えられる</li> <li>【主体的に学習に取り組む態度】</li> <li>これから1年間保育基礎を頑張ろうという意欲がみられる。</li> </ul>	○	○	○	6
	5章 子どもの文化 子どもの文化の意義 子どもの文化とは	<ul style="list-style-type: none"> <li>・絵本や遊び、歌などの児童文化財や児童館などの子どもの文化を支える場が、子どもの健やかな発達とどのような関わりを持つか、その意義について理解する。</li> <li>・近年の少子化、高度情報化の波で、子どもや子供文化をとりまく環境に変化がおきていることを知る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【知識・技能】</li> <li>・子どもの文化やそれを支える場の役割や意義を理解している</li> <li>【思考・判断・表現】</li> <li>・子どもの文化の現状をとらえ、今後の課題について考察することができる</li> </ul>	○	○		10
	子どもと遊び	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの健やかな発達における遊びの重要性や意義を、おもちゃづくりなどの活動を通して理解する</li> <li>・子どもの遊びと遊具や表現活動の意義や重要性などを、具体的に遊具等を作るなどの活動を通して理解する。</li> <li>・遊びにおける保育者からの働きかけを考え、遊びの援助ができるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【知識・技能】</li> <li>・遊びを通じて子どもが豊かに発達することについて、また子どもの文化の意義のすいて理解している。</li> <li>【思考・判断・表現】</li> <li>・子どもの発達や特性をふまえた上で、子どもの遊具等の作成に取り組み、子どもの遊びや表現活動に関連する技術を身につけている。</li> <li>・子どもの文化の意義を理解し、それらの役割や今後の課題について考察することができる。</li> <li>【主体的に学習に取り組む態度】</li> <li>・主体的に問題や課題に取り組むことができる。</li> </ul>	○	○	○	10
2 学 期	子どもの表現活動 造形表現活動 言語表現活動 音楽・身体表現活動 情報手段を活用した表現活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遊びを通じて子どもが豊かに発達することについて理解する。</li> <li>・子どもの発達や特性をふまえた上で、子どもの遊具等の作成に取り組み、子どもの遊びや表現活動に関連する技術を身につける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【知識・技能】</li> <li>・それぞれの表現活動の意義を理解し、表現活動の技術を身につけている</li> <li>【思考・判断・表現】</li> <li>・子どもの発達や特性をふまえた上で、適した表現活動を判断することができる。</li> <li>【主体的に学習に取り組む態度】</li> <li>・主体的に課題に取り組み意欲的に学ぼうとする姿勢がみられる。</li> </ul>	○	○	○	16
	子どもの生活 子どもの食事 栄養と食生活 離乳 幼児の食事	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもが心身の健康を保つための保育の技術を身につける。</li> <li>・乳幼児期の栄養や食事(乳汁栄養や離乳食、幼児食など)の特徴を実習を通して理解する。</li> <li>・子どもの衣生活と育児用品について、身体特徴をふまえ、安全で快適に生活するために何が必要か選択できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【知識・技能】</li> <li>・子どもの食生活や衣生活について子どもの健康的な生活を支える保育の基礎的な技術を身につけている</li> <li>【思考・判断・表現】</li> <li>・なぜそうするのかを理解したうえで、適切な配慮と判断をすることができる。</li> <li>【主体的に学習に取り組む態度】</li> <li>・子どもの生活に関心を持ち、主体的に子どもの生活を理解しようとしている。</li> </ul>	○	○	○	12

3 学 期	TRY 保育の課題に取り組もう	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの福祉に関心を持ち、児童福祉の理念や法律と制度について理解する。</li> <li>・子どもを地域や社会で支える子育て支援の具体的な場や制度について理解する。また、子育て支援の今後の課題と展望について考察する。</li> </ul>	<b>【思考・判断・表現】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自身の問題意識を見つめ、問題意識を持つことができる。</li> </ul> <b>【主体的に学習に取り組む態度】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・関心興味持って意欲的に調べることができる。課題についてまとめようとしている。</li> </ul>		○	○	8
							62